

【ここからはじめる！ 薬剤師のための臨床推論】

訂正のお知らせ

(2013.10.26)

ご購入いただきました【ここからはじめる！ 薬剤師のための臨床推論】（第1刷 2013年9月20日発行）におきまして、著者の一人である岸田直樹先生が執筆された序文が掲載されておりませんでした。以下に全文を掲載いたしますとともに、深くお詫び申し上げます。

医師からの願い

考える薬剤師に期待すること

“高度な医療の介入”，“多数の問題を抱えた高齢者の加速度をつけた増加”，そのような現代医療において、チーム医療はあたりまえのことになっています。ところが、そこに薬剤師が「いそうでいない」，「輪の中に来てくれそうで呼ばないと来てくれない」ことがあると日々感じます。

医師は薬剤師に対して、評論家のように遠くから後ろ向きに発言するのではなく、患者さんの訴えなど最前線で情報を集める一人になり、その収集した情報から病態を把握し、深い理解をすることで見えてくる患者さんのこれからを、特に治療の側面で時間軸にのって前向きにも話し合える輪に入ってほしいと考えています。現場で何が起きているか？薬剤師がその結果だけを教えてもらい遠くで眺めていたいと考えているとは思いません。一緒に情報収集し考えていきたいのですが、そのやり方を知らないのでしょうか。

臨床推論とは診断するためだけにあるものではありません。患者さんの病態を理解するため、なぜに医師がそのような診断を下すに至ったか、患者さんが良くなっているのか悪くなっているのか、そのようなことをチームでディスカッションしていく最低限のツールです。これは看護師の世界でもディスカッションされています。よくよく考えたら簡単な話なのです。が、明日からすぐにできるほど簡単なものではないということも知りましょう。体系的に学ぶ場が必要です。

専門科の分野でも同じことが言えます。例えば感染症の世界では抗菌薬適正使用に向けて Antimicrobial stewardship 時代に入りました。もはや机上の適正使用、つまり使用許可証といった Antibiotic control だけで適正使用ができる時代ではありません。薬剤師は、ただ医師に言われるがままに抗菌薬を提示できればいいのではなく、適切に介入すべき状況かを現場に出て臨床推論の知識を活かして患者情報を収集し介入する一員になることが重要です。そしてそのような臨床感染症に精通した薬剤師が Antimicrobial stewardship 時代においては、実は最も重要な存在なのです。

互いの専門性を最大限に発揮する、それは当然のことでしょう。それは最低限として、薬剤師が日本ならではのチーム医療の一員として常にその輪に存在し、臨床推論の考えを駆使しながら患者さんの時間軸にのって前向きにも発言する一員になり、全員総力戦となってこれから迎える日本の世界に類を見ない難局に立ち向かい、乗り越えていけることを医師として期待します。

2013年8月

岸田 直樹